

各位

全2ページ
登録速報(2022-097)
2022年 3月 9日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部 普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2022年3月9日

記

1. 農薬の登録番号及び名称
登録番号：第24134号
名 称：アンコール箱粒剤

2. 変更の内容
農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙【変更後】のとおりとする。

- ・作物名「稲(箱育苗)」の使用方法「育苗箱の上から均一に散布する。」に使用量「高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50~100g)」を追加する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
農薬登録申請書第8項中、2)を変更、3)を追加し、現行3)以降を繰り下げ、別紙【変更後】のとおりとする。

【変更前】

- 2) 育苗箱の土壌表面が乾燥していて苗を田植え機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落とした後軽く灌水すること。

【変更後】

- 2) 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とした後軽く灌水すること。

【追加事項】

- 3) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

別紙

7. 適用病害虫の範囲及び使用方法

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
種 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ フタオビコヤガ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日前 ～移植当日	1 回	<u>育苗箱の上から 均一に 散布する。</u>
		<u>高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50～100g)</u>	移植当日		

クワントラニプロールを 含む農薬の総使用回数	トリフルメピリムを 含む農薬の総使用回数	トリックザールを 含む農薬の総使用回数
1 回	1 回	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、 本田では 3 回以内)

8. 使用上の注意事項

【変更後】

- 1) 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布すること。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすこと。
- 2) 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落としした後軽く灌水すること。
- 3) 育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当りに乾糞として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- 4) 軟弱徒長苗、老化苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 5) 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので代かきは丁寧におこない、移植後田面が露出しないように注意すること。
- 6) 移植後、低温が続く苗の活着遅延が予測される場合、あるいは移植後極端な高温 (30℃以上) が続くと予測される場合は、薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- 7) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上